

高島市学校施設長寿命化計画 概要版

計画期間 2025（令和7）年度から2029（令和11）年度までの5年間

1. 計画の目的

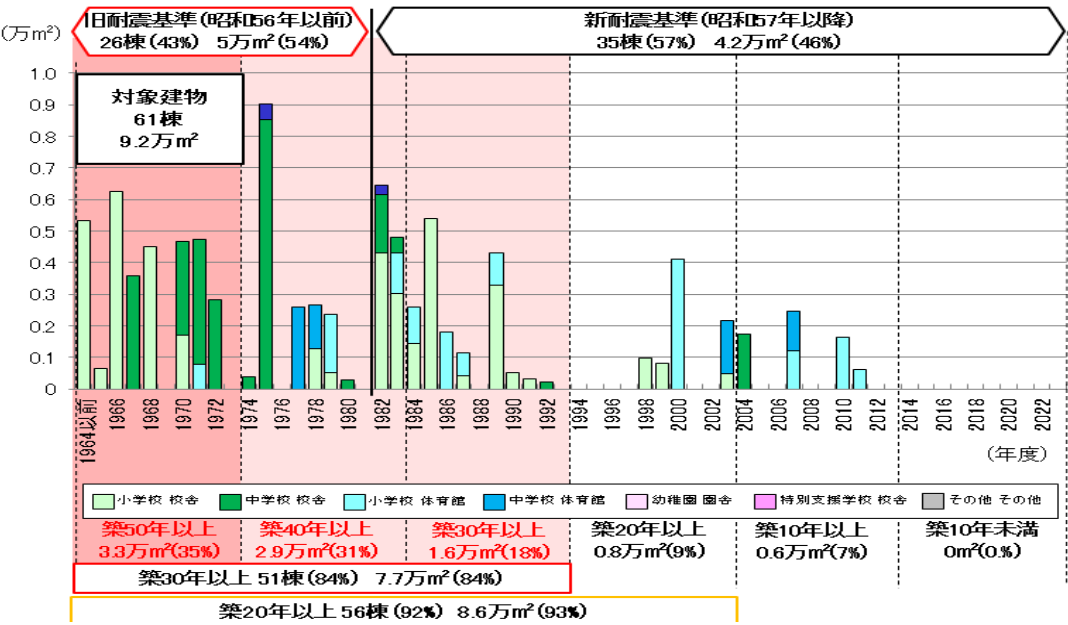
施設の長寿命化を推進し、中長期的コストの縮減、財政負担の平準化を図ります。

2. 計画の位置付け

文部科学省が掲げる「公立学校施設に係る個別施設計画」に該当します。

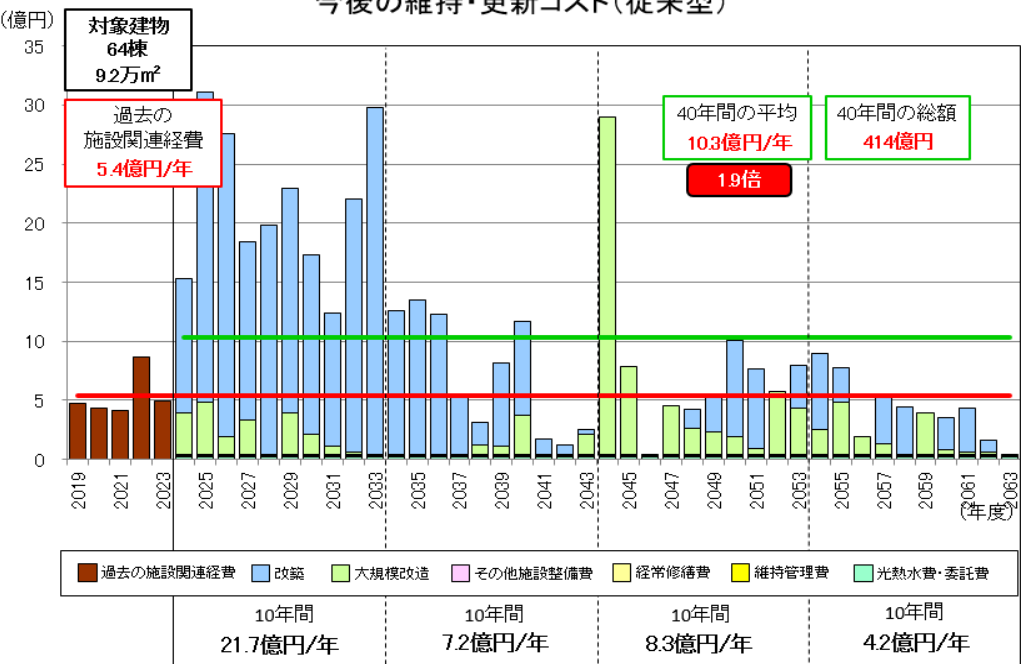
3. 学校施設の実態

築年別整備状況



市内には、小学校 13 校（延床面積 57,404 ㎡）、中学校 6 校（延床面積 34,559 ㎡）の延べ 61 棟を有しています。そのうち、築 30 年以上経過しているものが 51 棟、およそ 7.7 万㎡あり、全体の 84%を占めています。

今後の維持・更新コスト(従来型)



50 年で改築する方法を続けた場合、今後 40 年間の費用総額は 414 億円に上ります。

4. 施設整備の基本方針

学校再編を考慮しながら、長寿命化により 80 年の使用を目標とします。

① 長寿命化改修工事の推進

維持修繕を行いながら、予防的な改修工事を計画的に実施します。また、維持管理・改修にかかる費用の縮減と予算の平準化のため、対象となり得る施設の長寿命化改修工事を実施します。

② 学校再編

今後の児童数および生徒数の推移を十分検討しながら、統廃合の検討を行います。

③ 防災拠点としての学校の在り方

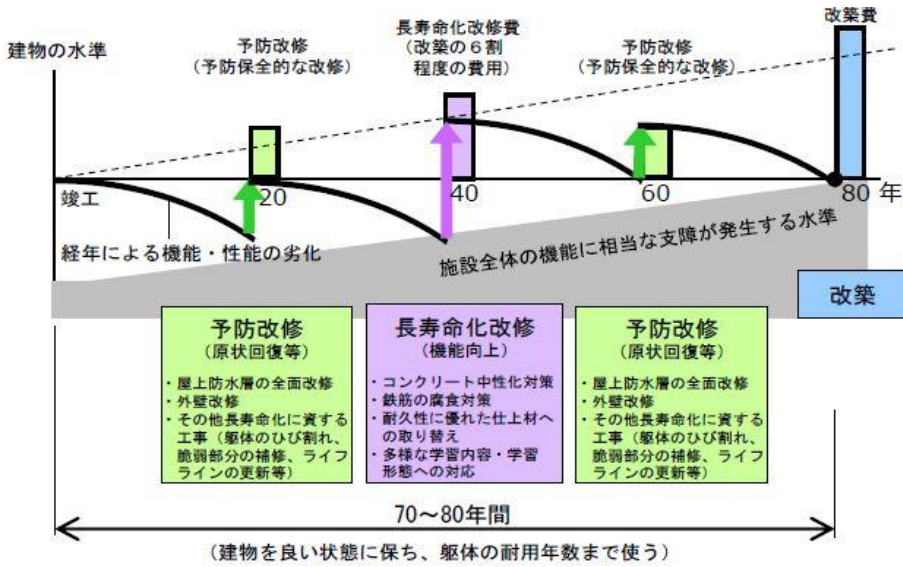
避難所として必要な防災機能を備えるように努めます。

④ 地域拠点としての学校の在り方

地域拠点として、住民等が学校施設の利用や学校活動への参画ができるよう、必要な整備を推進します。

▶改修の周期（躯体の長寿命化改修を行う場合）

長寿命化改良工事により建物の寿命を 80 年程度まで延長した場合、今後 40 年間の維持更新コストは総額約 404 億円（10 億円/年）となり、改築中心の場合の 414 億円（10.3 億円/年）と比較し、総額 10 億円、約 2.4%の縮減となります。



5. 長寿命化改良工事等の実施計画

①施設整備の考え方

適正配置、築年数、劣化状況、過去の改修状況を総合的に考慮して、工事の順序や対象校を決定します。

②今後の実施計画

▶長寿命化改修の対象校 築 50 年以内で、これまでに大規模改造工事を実施していないことを優先に、高島市小中学校再編基本方針と本市の財政状況を考慮しながら決定します。

▶その他の学校 予防的な改修工事を行い、可能であれば 80 年まで使用することを目標とします。

(単位：百万円)

年度	R 7 年度	R 8 年度	R 9 年度	R10年度	R11年度	R12年度以降
対象校	安曇川中学校					高島小学校 高島中学校
	長寿命化改良Ⅰ期	長寿命化改良Ⅱ期				
		安曇小学校				
		トイレ改修	長寿命化改良Ⅰ期	長寿命化改良Ⅱ期	長寿命化改良Ⅲ期	
		（仮称）マキノ小学校				
		校舎建築Ⅰ期	校舎建築Ⅱ期			
			マキノ中学校			
			統合改修			
事業費	410	1,297	1,420	310	318	-